



昭和大学
SHOWA University

—昭和大学歯科病院の理念—

患者本位の医療
先進的医療の推進
医療人の育成

発行責任者 病院長 榎 宏太郎
編集責任者 広報委員長 長谷川 篤司
〒145-8515 東京都大田区北千束2-1-1
TEL 03-3787-1151(代表)
いちいちごいち

ホームページ: <https://www.showa-u.ac.jp/SUHD/index.html>

風邪と全身麻酔

歯科麻酔科 診療科長・教授 増田 陸雄

時節柄、風邪が流行していますが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

今年度はインフルエンザが猛威を振っています。昨年度までは新型コロナウイルスの影に隠れていましたが、厚生労働省の発表によると、昨年12月29日までの1週間に報告されたインフルエンザ患者数は、1999年4月以降の集計で最多となりました。ピーク時に比べてやや落ち着いたものの、依然として警報レベルの流行が続いており、治療薬（タミフルなど）が不足している地域もあるようです。

新型コロナウイルスについては、感染者が国内で初めて確認されてから5年が経ち、報道が減少したこともあって意識する機会が減ったかもしれません。しかしながら、新型コロナウイルスによる死者数は依然としてインフルエンザを上回るとの報告があり、引き続き十分な注意が必要です。

当院では毎日、全身麻酔を用いた治療を行っています。全身麻酔は主に手術を受けていただくときに必要となりますが、風邪などによりのどや肺に炎症がある場合、全

身麻酔によって炎症が悪化し、喘息の発作や肺炎などを引き起こすリスクが高まります。こうしたリスクは風邪をひいてからおよそ1カ月続くとされ、日本麻酔科学会では、この間の手術延期を推奨しています。

特に新型コロナウイルス感染症の場合は、感染後7週間以上経過してからの手術が推奨されています。そのため、全身麻酔前に風邪をひいてしまうと、せっかく予定を調整していただいても手術を延期せざるを得ない場合がございます。当院としても手術の延期をお願いするのは心苦しいことですが、皆様に安全に治療を受けていただくことが最優先ですので、何卒ご理解いただければ幸いです。

まだまだ寒い日が続きます。皆様、特にこれから全身麻酔での手術を控えている方は、どうぞお体を大切にお過ごしください。



- P1 巻頭言 風邪と全身麻酔
- P2 診療科紹介：歯科麻酔科
- P3 歯科診療トピック：インプラント歯科
- P4 部署紹介：放射線技術室、編集後記

記事見出しの色分けをいたしました。

■ 患者さん向け、 ■ 医療機関向け、 ■ お知らせなど

歯医者さんが怖い、治療器具が入るとオエッとなってしまう（嘔吐反射）ことはありませんか？ また、全身的な疾患を理由に、町の歯科医院で治療を断られた経験はありませんか？ 昭和大学歯科病院歯科麻酔科では、こうした不安や悩みを和らげる取り組みを日々行っています。

不安を和らげる方法として「静脈内鎮静法」があります。これは、鎮静薬（リラックスできるお薬）を血管内に少しずつ投与することにより、半分眠ったような状態で治療が受けられる方法です。昨年は2000名以上の患者さんがこの方法を利用され、「治療中の不安が軽減された」、「嘔吐反射が抑えられた」、「歯科治療がこんなに楽だとは思わなかった」など多くの喜びの声をいただきました。

「全身麻酔」による治療も当院では行っています。全身麻酔を用いると完全に眠った状態となるため、治療中の痛みや恐怖を一切感じることがありません。また、全身麻酔だと十分な治療時間が確保できるため、本来であれば何回か来院していただく必要のある治療

でも、内容によっては、一度の治療で終わることも可能です。当院では毎年、1000件を超える全身麻酔症例数があり、麻酔中は経験豊富な歯科麻酔科医が常に見守っていますので、安心して治療を受けていただくことができます。

歯科治療で静脈内鎮静法や全身麻酔を行うことに対して、まだ馴染みが少ないかもしれません。私たちはパンフレットやウェブサイトを通じて、わかりやすくこれらの方法を紹介していますので、興味がある方はぜひご覧ください。また、これらの方法以外にも、皆さんが安心して治療を受けられるよう、リラックスできる環境の整備や充実した心理的サポートも行っています。

歯科麻酔科は当院のみならず、昭和大学の各附属病院に活動の範囲を広げています。医局員は日本歯科麻酔学会の専門医10名、認定医11名を含む42名が在籍し、歯科治療や手術の麻酔を担当しています。歯科治療に対して少しでも不安を感じる方は、診療担当医を通してそれぞれの歯科麻酔科までお問い合わせください。お待ちしております。

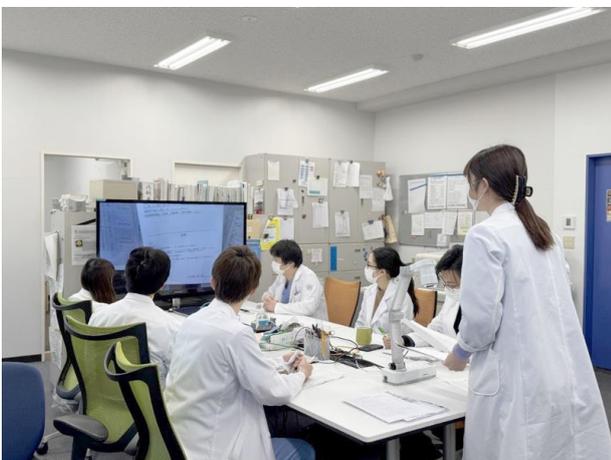


図1 カンファレンス風景



図2 当院外来IVSセンター

歯科診療トピック：インプラント歯科

インプラント歯科 診療科長補佐・准教授 佐藤 大輔

インプラント治療は歯を失った部分の骨にインプラントを埋め込み、その上に歯を装着してお口の機能を回復させる治療です。

昭和大学歯科病院インプラント歯科には、インプラント治療のため多くの患者が来院されています。2023年度は、インプラント埋入手術件数783例、総埋入本数1205本の治療実績があります。

月～土曜日まで毎日、予約制でインプラントに関するご相談をお受けしています。

インプラント歯科予約受付

03-5498-1903

インプラント治療とは何か、一人一人の患者さんについて他の方法よりも本当にインプラントの方が良いのか、インプラント専門医が丁寧に、ご説明いたします。

当院で行うことができる特徴的なインプラント治療について簡単にご紹介させていただきます。

1. 手術を受けるのが怖い方へ：静脈内鎮静（セデーション）を併用した手術

インプラントを入れる際には、点滴からお薬を入れて、恐怖感の少ないリラックスした状態で手術を受けることができます。

2. 手術した日に仮の歯を入れることができる治療法

オールオンフォーや即時荷重と呼ばれる方法です。インプラントを立体的にバランス良く埋めることにより、骨の移植を行うことなく、手術したその日から固定式の仮の歯を装着できる治療術式です（写真）。

3. 顎の骨の量が足りない場合の治療法

サイナスリフトや骨移植と呼ばれる方法です。顎の骨の量が足りず、そのままではインプラントを入れることができない場合にも、骨を増やしてインプラントを入れることが可能にすることができます。

4. インプラント治療後のメンテナンス

他院で治療された後通院が困難になった場合のメンテナンスも行っています。インプラント治療後、重要なことは、治療後のメンテナンスを継続することです。通常は治療を行った医院でメンテナンスを行いますが、さまざまな事情により通院ができない場合は、当科にて継続したメンテナンスを行っていくことが可能です。

5. 健康保険でのインプラント治療

インプラント治療は原則健康保険が適用されませんが、腫瘍や外傷で広範囲に顎の骨を失った方、先天的な理由で永久歯が無い方は、健康保険が適用される場合があります。ご相談ください。



治療例 術前



治療例 術後

部署紹介：放射線技術室

放射線技術室 責任者 齋藤 徹

放射線技術室は、病気の診断や治療に必要な画像検査を実施する部門です。主な画像検査には、顎全体を撮る歯科パノラマ撮影、口の中を詳しく撮る歯科デンタル撮影、歯並びの診断に使う頭部規格（セファロ）撮影があります。

さらに、詳しい診断が必要な場合には、顎の骨と歯の位置関係を詳しく調べる歯科専用CT検査や、体の腫瘍や炎症の状態を確認するための全身用CT造影検査も行っています。また、昭和大学歯科病院内科クリニックや地域の歯科医院および診療所からの検査依頼にも対応しております。

2023年3月には、矯正治療に重要なセファロ撮影装置を更新し、X線をデジタル画像に変換するFPD（フラットパネルディテクタ）を導入しました。これにより、従来よりも高画質、短時間でより効率よく検査を受けていただけるようになりました。



スタッフ一同

現在、放射線技術室には5名の診療放射線技師が在籍しており、昭和大学病院と連携しながら、安全で質の高い医療を提供するために日々努力しています。診療放射線技師の仕事は、上述した画像検査をするだけでなく、装置の管理、検査内容の説明、放射線の被ばくに関する管理や相談なども行っています。

2020年には、日本の診断参考レベル（DRLs: National Diagnostic Reference Levels in Japan 2020）が発表され、歯科分野におけるX線の被ばく量の基準が定められました。2025年の改訂に向けて現在も調査が進められており、当施設もそのデータ提供に協力しています。当放射線技術室では、この基準に従って適切な画像検査を行っておりますので、放射線の影響や画像検査について不安なことがあれば、お気軽にご相談ください。



セファロ撮影装置（FPD搭載）

編集後記

今年も感染性胃腸炎が流行しております。予防策としては、手洗いの徹底が最も効果的とされています。特にトイレの後や食事前、嘔吐物や便の処理後には、石けんと流水で十分に手を洗うことが推奨されています。

乳幼児や高齢者において重症化するリスクが高いため、家庭などでの予防対策を徹底し、体調不良時には早めに医療機関を受診しましょう。

(R.N)

